

(2) 獨逸帝國の建設。普國は獨逸聯邦の推す所となりて獨逸帝國を建設し、一八七一年一月十八日普王（Wilhelm I）世皇帝の位につき三月に至り議會を開き憲法を制定せり。

(3) 伊太利統一の完成。伊國は此間に兵を出してローマを占領し都を茲に奠めて統一の業を完成せり。

一三、露土戦争。

- (1) 【原因】。露土戦争に至りし重なる原因左の如し。
- (1)、英露の角逐。露國南侵の勢は益々盛にして止まず、英國は印度の經營其効を奏し茲に兵備を増じて以て露の南侵に顔頑せんとせり。
- (2)、トルコの内亂。此時にあたりトルコの國勢大に衰へ、財政大に困

英國女王ヴィクトリアは印度女帝の尊號を兼ね給へり

もしトルコが分割される時は露國の南侵は容易ならしむるを從つて英領土國を以て英國は土國を助けし

土都とはコンスタンチノール也。

（Russo Turkish War）

難を極めしかば人民其壓制重歛に堪へず、ヘルゼゴビナ、ボスニア、ブルガリア等に反亂相ついで起れり。

（Bulgaria）

(3) 列國の干涉。列國は此間に奔走して土國に内政改革をすゝめ幸ひ土帝の快諾を得たれども、從來屢々瞞着せられたる人民は之に満足せず、是に於て列國は更に其内政の改革を斷行すべきことを求め土國は英國の後援を頼みて之に應ぜざれば一八七七年露國は遂に土國に對して開戦を布告せり。

（II）【戦争の經過】。斯くて露の大軍忽ち土國に入りてオスマンパシヤ

の勇敢なる防禦にも係らずプレヅナを陥れて將に土都に迫らんとす。

土國力竭きて和を乞ひしに露國は翌年三月サンステファン（San Stefano）の條約によ



り大に土國の勢力を削り之をして廣大なる土地を割かしめしかば英國は此條件の不當を鳴らし埃と共に兵を備を將に干才相見えんとせり。

III) **「ベルリン會議」**。是に於てビスマルクは仲裁の勞を取り、遂に一八七〇年列國の全權ベルリンに會して前條約を廢棄し、(1)セルビア、ル

マニア、モンテネグロの獨立を認め、(2)ボスニア、ヘルゼゴヴィナの行

政を埃國に托し、(3)アジアのカトス、パツーム等を露國に譲り、イタリ

アはキプロスを得ることゝ爲して事落着せり。

斯くてトルコは大削減の災を免れ、ロシアは其慾望を遂ぐる能はずして英人の企圖全く功を奏せり。

一四、最近の事件。

I) **「國際的事件」**。ベルリン會議以後歐洲の外交社會は頗る複雑となり、今其重なる者を擧ぐれば。

(1) 三國同盟。ビスマルクは一八八三年埃伊と共に三國同盟して露佛二國に備へしかば、一八九五年以來露佛二國は相携へて之に當りぬ、

而して英國は超然として局外に立ち歐洲は茲に權力の平衡を得て平和を趣けり。

(2) 日清戦争と馬關條約干涉。一八九四年日清兩國の交戦に於て歐洲列國は清の衰弱せるを知り、翌年馬關條約成るに及び露獨佛の三國は相結ひて干涉を試み日本をして其占領せる遼東半島を清に還附せしめ、次で清に迫りて獨は膠州灣を、露は旅順を、佛は廣州灣を、英は威海







北清事件の  
とは前の註に  
述べたり。

三年北清事件以後は鐵道保護を名として兵を滿洲に送り事平定後も撤兵せず漸次地歩を進めて朝鮮をも壓服せんとせり、東洋の平和朝鮮の獨立を以て表章とせる日本は一方強硬なる抗議を入るゝは其に他方に於て英國と同盟して以て之に備へしが、露國の陰險なる滿洲撤兵を約し乍ら隆に兵を滿韓に送りて軍事的行動を逞ふせしかば我政府は大に決する所ありて遂に彼と宣戰するに至れり、時に明治卅七年二月也。

(ロ) 戰況。爾來我軍は海に陸に連戰連勝の勢を以ていたく列國の賞讃を博し卅八年二月奉天附近の大戦に於て陸軍は世界稀有の大捷を得、同五月廿七、八の兩日、日本海を戰に於て我海軍は亦露のバルチック艦隊を殆んど全滅せり。

(ハ) 媾和。茲に於て日露兩國はアメリカ大統領ルーズヴェルト氏の提議によりて米國ボーンマウスに媾和の談判を開き我國の寛大なる讓歩によりて茲に平和の成立を見るに至れり。

III 「アフリカ及アメリカ」。アフリカ及アメリカに於ける白人の重要な運動は左の如し。

- (1) アフリカの拓植。歐洲列強は亦競ひて地をアフリカに開き、(イ) 佛國はチュニス、サハラ砂漠以南及びマダガスカル島を領域とし、(ロ) 獨逸は獨逸南西及東のアフリカ領を建て、(ハ) 英國は喜望峯植民地を以て益々其境域を廣めたり。
- (2) 英人とボリア人。英人の漸次境域を廣むるやボリア人は喜望峯植



プー人といふ正しといふ蘭人と土人の雑種なり。

モンロー主義のことは本編第三章(III)の(2)に詳し。

民地を去りてトランスワール共和国を建て英國政府は只外交を監督するのみなりしが、在留外人に参政權附與の事につき英國と衝突するに及び、一九〇二年英國遂に之を征服して其共和国を廢し、トランスワール植民地とせり。

(3)、合衆國と太平洋。合衆國はマッキンレーの大統領となるに及びモンロー主義の外交政策を一變して帝國主義をとり、一八九八年布哇を併せ、又キューバ島民の叛亂に干渉して西班牙と戦ひ、其局西國はキューバの獨立を認めフィリピン群島を合衆國に割與せり。

一五、十九世紀の文化。

(I) 「物質的進歩」。其最も重要なるは左の三也とす。

一八二九年初めにリヴァイ・エルトンとジョン・マシンの間を運轉せり

(1)、水蒸氣の利用と世界の交通。ワットが蒸氣機關を發明してより米人フルトンは之を蒸氣船に應用し、英人スチュンソンは之を機關車に實行したり、これより一方に於て北米には五條の横斷鐵道敷設せられ一八六九年には佛人レセップのスエズ運河開鑿を遂ぐるあり、他方に於てシベリア鐵道已に全通しパナマ運河の成效亦近きにあらんとす。是に於てか世界交通の形勢一變して、地球の上表は汽車汽船の通路を以て網を敷けるが如くなれり。

(2)、電氣の應用。電氣の應用は工藝上種々の方面に對して益々其必要を感じられたり、今其重なるものを擧ぐれば、(イ)電信は獨人ガウス、(ロ)海底電線の發明によりて廣く地上の實用に供せらるゝに至り、(ハ)海底



電話はアレキ  
サンダーベル  
の發明なり。

電信は先に大西洋底に敷設せられ亦將に太平洋底にも計畫せられんとす。(ハ)其他電話、電燈、電車、無線電信等其應用の宏にして實用の大なる亦擧げて數ふべからず。

(3)、兵器の進歩。多くの銃砲は元込となり連發となり、無煙火藥、爆烈彈、水電機の發明と共に軍艦は甲鐵を以て被はるゝに至れり。

(II) 【文學科學の進歩】。

(1)、科學の三大發明。現代紀に於ける學理の進歩は實に驚くべきものにして就中最も著しき成績は、(イ)英人ダーウソンの進化論、(ロ)獨人マイエルの勢力不滅説、(ハ)全人の物質不滅説の三なり、其他顯微鏡、望遠鏡、寫眞術の發明は諸科學の進歩を助けたることに類る大也。

(2)、哲學及史學。哲學は獨人カント、ヘーゲル等の大家にのいて、

ペンハウエル、スベンサー(英)等出て、各々一家の説を出せり。史學

は獨人ランケの爛々たる史眼を以て根本史料により研究を試みしより

英のフリートマン、佛のテリン等數多知名の史家輩出するに至れり。

(3)、文學者。其尤も著名なるは左の如し。

(イ)ゲーテ。獨逸の有名なる大詩人にして其大作にファウストあり。

(ロ)ユーゴ。佛の有名なる小説家にして後華族に列せらる。

(ハ)テニソン。英國の桂冠詩にして「皇女」の作者なり。

(III) 【社會主義と慈善事業】。社會進歩して貧富の懸隔甚だしくなると共に極端なる社會の改造を唱ふるもの出たり、中には獨佛の社會黨



露帝アレキ  
下二世は虚無  
黨の爲めに  
暗殺されたり

セリアの  
人ナイ  
ンゲルは  
ソチヘ  
ンゲルは  
ソチヘ  
ルンゲル  
に感ずる  
所ありて  
奔走せ  
り。

露の虚無黨の如き過激の手段に訴へて其目的を達せんとせり。されど亦他面に於ては博愛慈善の事業も大に起り、博愛院、孤兒院の設立せらるゝと共に戦時負傷者の救護を目的とする赤十字社には先進國概ね加盟するに至れり。

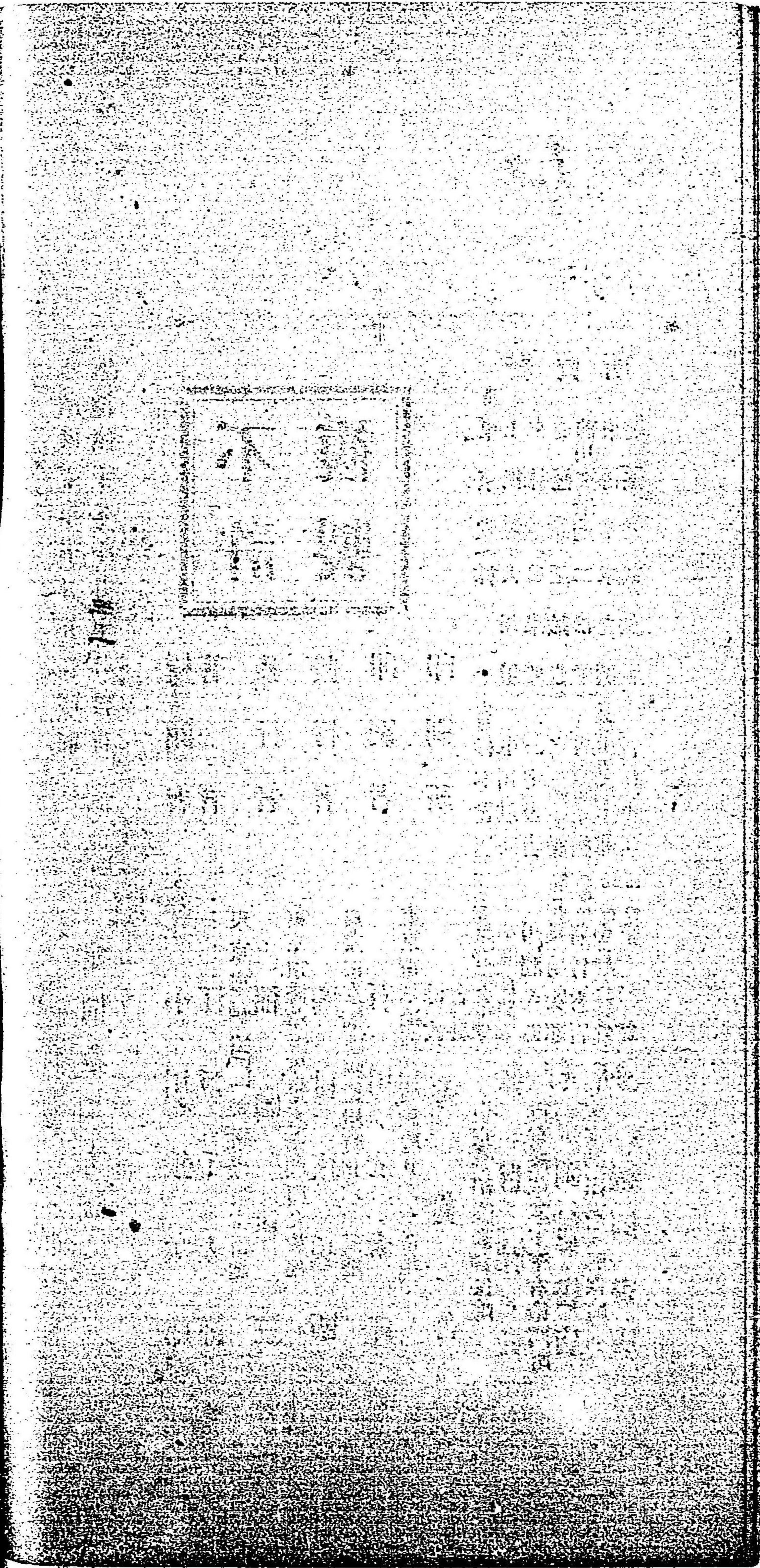
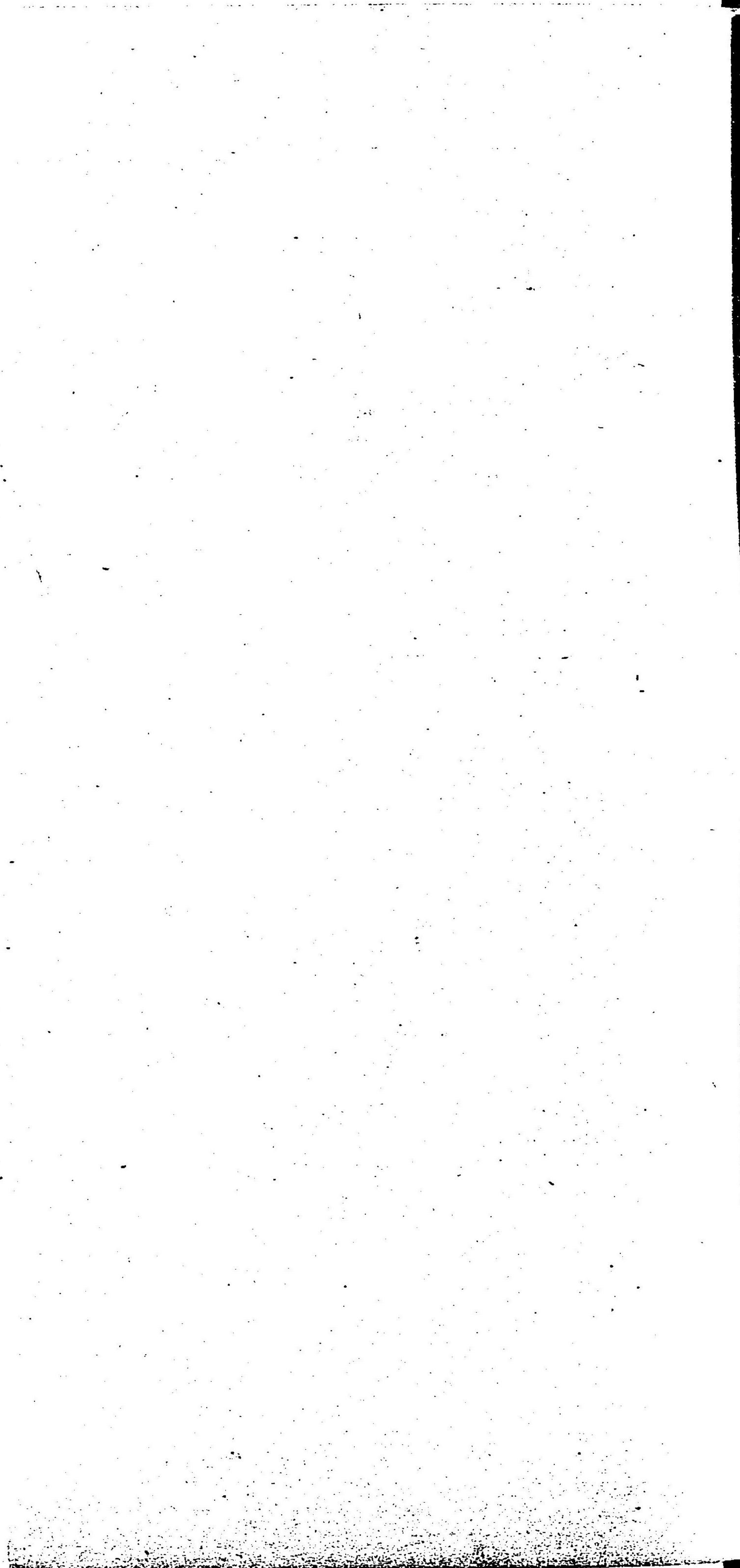
一六、現代史概観。

王權擴張の反動は民權主張、自由平等の新思想を起し遂に破裂して佛國の大革命となり、ナポレオンの歐洲蹂躪となりしがナポレオンの失敗と共に歐洲諸國皆革命熱より覺めて自由的國家統一主義を發揚するに至れり。此間に於ける學理の實地應用は交通運搬の形勢を一變するに及び白人の鋒は轉じてアフリカの拓植となり、亞細亞の侵略となれり。今や我國は此世界生存競争の舞臺に立ちて東洋の平和を永遠に維持せんとす、其責任豈輕しといふべけんや。











258  
246



